**日常的な維持管理の着実な実践**

# **「劣化・損傷の原因を排除する」と言う視点での取組み**

**「中間とりまとめ」P17抜粋**

(1)　日常的な維持管理・修繕作業における留意事項

日常的な維持管理・修繕作業を実施する際には、これまでの取組に加え、以下の内容などに留意する必要がある。

・比較的小規模で簡易な作業を行うことで、機能回復は期待できないものの劣化を抑制することができる場合がある。このような作業を選定し、計画的かつ継続的に実施することで長寿命化に努めるべきである（例：橋梁の排水不良の解消・堆積土砂除去、小規模橋梁の支承防食）。

・道路における大型車通行の適正化など、施設の適正利用により長寿命化に努めるべきである。

**1)長寿命化に資する維持管理・修繕作業**

* 表２－１に示す調査表（案）で、各分野・施設において考えられる長寿命化に資する取組について、調査、整理する。
* 横軸（分野・施設）については、各分野・部会で、適宜、分割または集約する。
* 各欄には、各分野・施設における「既に実施している取組」および「今後の実施すべき取組」を記載する。

　（例）　既に実施している取組：橋梁における「支承まわりの清掃」

**2)施設の適正利用に向けた取組み**

* 表２－１に示す調査表（案）で、各分野・施設において考えられる施設の適正利用に向けた取組みとして、人為的な問題と、それらに対する取組実績および今後の取組予定を調査、整理する。
* 横軸（分野・施設）については、各分野・部会で、適宜、分割または集約する。
* 各欄には、各分野・施設における「人為的な問題」および「現在の取組事例」「今後の取組予定」を記載する。

　（例）　人為的な問題　：橋梁における「車両の過積載」

　　　　　　　現在の取組　　：過積載車両に対する行政指導

　　　　　　今後の取組予定：警察との連携による取締りの強化など

# **データ蓄積・管理ルールの確立**

**「中間とりまとめ」P17抜粋**

(2)　データ蓄積・管理

維持管理に関するデータは、基本的に同一のシステムで管理・蓄積されているが、一部の分野・施設では、独立したシステムで管理しているものがある。今後、データを有効に活用していくためには、データの一元管理が必須であり、相互に関連付けるべきである。

また、点検やパトロール、補修・補強等の履歴などのデータは、電子データを基本とし、その取扱いルールを明確にすることが重要である。以下に基本的な考え方を示す。

・データは、事務所毎に分野・施設ごと、業務ごとに分類し、管理・蓄積を行う。

・各事務所は、データを管理する管理責任者および分野・施設ごと業務ごとのデータ入力（蓄積）担当者を定める。管理責任者は、適宜データの入力（蓄積）状況を管理するとともに年度末には、蓄積状況を確認する。

・事業室（局）課は、事務所毎に管理・蓄積されたデータの内、計画的な維持管理に資するデータ等を選定し、選定したデータの管理・蓄積状況を適宜確認するとともに年度末には、蓄積状況を確認する。

**1)データ蓄積・管理**

* 表2－1に示す調査表（案）で、各分野・施設における維持管理におけるデータ蓄積・データ管理、分析等について、調査、整理する。
* 横軸（分野・施設）については、各分野・部会で、適宜、分割または集約する。